

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700081		
法人名	社会福祉法人太陽の里		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-15		
自己評価作成日	令和2年9月	評価結果市町提出日	令和2年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2490700081-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員手作りの食事 ②施設内外の行事 ③医療機関との連携

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地が広く、コスモスが咲く花畑やさつま芋が採れる野菜畑、デイサービスセンター事業所と駐車場があり、毎日の散歩コースや地域のイベント会場となっている。今回のコロナ禍で外出や面会に制限を設けているが、オープンキッチンで利用者と職員が対話しながら3食の食事とおやつを手作りしたり、馴染みの職員と洗濯物をたたんだり、フロアにお花を生けるなど常に利用者にやさしく寄り添い、一人ひとりの生活スタイルに合わせた支援をしている。利用者家族に対しても、利用者の身体状況を細かく電話や便りなどで報告し、家族から信頼がある。管理者・職員が笑顔を忘れないように、利用者目線に立って支援をしている穏やかな雰囲気漂う事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲示し、毎朝唱和している。理念に基づいた介護を実践している。	法人・事業所の理念の他、事業所独自で毎年、月間目標を決めて、毎朝の申し送り時に管理者・職員で唱和している。なじみの職員がやさしく寄り添い、利用者の意向を尊重し、実践の中でも常に理念に立ち返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、役員会への出席や溝掃除や草刈りに参加している。年に2回の防災訓練を自治会と共に主になって行っている。現在、コロナの影響で開催されていない。	毎年、地域の行事に参加し、防災訓練も自治会と共に行ってきたが今年はコロナ禍で実施していない。工夫をして地域の人たちとの顔見知りの関係を続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度、認知症カフェとして「SUNカフェ」を実施。認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバンメイトとして、地域の方々に認知症の理解や支援を深められるようにしている。現在はコロナの影響で実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、市、包括、地元警察、家族等に入居者様の状態や活動報告を行い、様々な意見を頂きサービス向上に活かしている。現在、コロナの影響で開催していない。	年6回(コロナ禍で3回中止)、隣接のデイサービスと合同で開催している。事業所からの報告と共に行政など参加者から助言や意見を頂き、貴重な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	少しでも疑問に思った事や分からない事があれば連絡を取り、会議だけの関係にならないようにしている。	毎月、管理者が届け出書類などの提出に向向している。市主催の研修会に参加したり運営推進会議に参加して頂いた時、相談・助言を得るなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に勉強会を開催し正しい知識の理解や向上に努めている。コールマット等を活用し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年1回の法人研修及び事業所の職員会議で拘束をしないケアについて勉強している。管理者・職員は「何が拘束に当たるか？」を常に意識しながら理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体の勉強会や研修で理解を深め、無意識に虐待(行動、言葉)が行われていないか皆で注意し業務を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体の勉強会や研修で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ丁寧な説明を心掛けています。入居されてからも疑問点があればその都度対応している。介護保険の改正等があった場合はご家族様へ説明し同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会や日頃の面会、電話等で意見を伺えるようにしている。意見を頂いた時はすぐに反映している。ご入居者様様は毎月の新聞や個別で便りを出している。コロナの影響で今年の家族会は開催出来ていない。	現在、楽しみとなっている年1回の家族会は出来ないが、ホーム便り「なごやか新聞」の郵送で利用者の状況報告を家族にすると共に、電話対応で意見や要望を聞く工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回の職員会議にて職員の意見を聞き反映させている。管理者やチーフが個別で話を聞く時もある。	理事長と年1回の個別面談(リモートで)がある他、管理者やチーフが日頃の意見の吸い上げも含めて常に職員の声に耳を傾け、運営やケアサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が定期的に個別面談を行い、人事考課も行って職員の悩みや思いを把握する事に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人事研修課を設置し、各職員に必要な法人内外の研修に積極的に参加できるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流や研修をおこない意見交換をしている。現在はコロナの影響で開催していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調にて本人様と面談し本人・家族の思いを傾聴し受容する事を心掛けます。また、実調報告書にて他職員とも情報共有し、入居しても安心して生活できるような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は家族と連絡を密に行いご本人の様子を伝えたり家族の不安や要望を理解し職員間で共有し支援に繋げている。家族にも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始段階で要望や必要としている支援を見極め、早期にケアプランを作成し援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てを職員が行わず、洗濯たたみ等家庭的な事で共に実施する事が可能な事は行っている。新聞や広告を一緒に読みながら記事について話したりと家族のような関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に行い、居室での面会など家族との時間を大切にしている。現在はコロナの為、面会は出来ていないが月1回の近況報告や状態に合わせて電話での相談などで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイに通っていた方は時々デイにも出向きお知り合いの方と交流している。	コロナ禍で外出・面会などが出来ない状態の中、隣接するデイサービスの周辺を散歩途中で馴染みの利用者に対して窓ガラス越しに手を振るなどの工夫をしている。	コロナ禍の収束に目途が立たないため、家族・知人との面会が困難になっている。電話・メール・手紙・テレビ電話など可能な手段を用いて、利用者の関係継続のために尽力されることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きな方同士が会話しやすいように席を配置したり職員も会話に入り周りの方にも会話が広がるように話題を提供している。居室対応の方でも訪室の機会を多く持ち孤立しないよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても何かあれば連絡下さいと伝え、相談があった時は、相談や支援を行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を大切に尊重している。本人に意向を聞けない時は家族に思いや希望を聞き本人の気持ちになってケアプランを作成しサービスを提供している。	アセスメントをしっかり行い、家族に生活スタイルを聞くと共に入居後の生活スタイルを見て一人一人に合った支援に努めている。本人の言葉やちょっとした仕草や表情からも思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや家族との面談で把握していている。入居されてからは生活の中で本人の言動や行動から理解していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から状態観察を行いまた、引継ぎや介護日誌・生活記録表(食事、投薬、排泄、バイタル、入浴)を利用し、現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望を聞いたうえでカンファレンスを行い希望に沿ったケアプランを作成している。また、カンファレンスで見直しを行い毎月の職員会議で意見交換をしている。変化時は随時話し合いを行っている。	本人・家族との話し合いを行い、それを基に職員会議で担当職員の意見も聞き、介護計画を作成している。作成者が介護のケアも兼ねていて毎月モニタリング・評価を行い、3か月ごとの見直しと状態に変化があれば、随時の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や家族とのやり取り等を個別に記録している。ケアプランの経過も記録し見直しに活かしている。毎朝出勤時には日誌等の確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあった場合、家族+施設で検討し可能な限り実現できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方にあったサービスを提供できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院の主治医と関係を築き定期的に受診の支援等を行っている。協力医の訪問診察や電話相談ができる環境もある為、安心して頂けるような医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医は1名で他は協力医であり、月2回の訪問診療を受けている。他科受診は主治医の指示のもと職員による受診支援をしている。協力医とは24時間体制で利用者が医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か異常があれば苑の看護師や各主治医と連携し、適切な医療を受けられるようにしている。24時間オンコール体制で夜間でも相談する事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が付き添い、介護サマリー等での情報交換が素早く出来るように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や医療行為が必要となった時には家族との話し合いを十分に行い家族の意向を踏まえた上で、主治医と連携をとりながら取り組んでいる。	入居時に看取りや重度化に向けての指針を文章で説明している。事業所として看取りはしない方針であるが、身体状況を見ながらそのつど家族・医師と相談・連携をしながら、出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年職員会議などで急変時の対応の勉強会を開催している。法人でも救急救命訓練の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者、自治会、住民の方々と共に年2回の防災訓練を行っている。この際、消防署の協力で避難経路の確認や、消火活動の訓練をしている。	年2回、消防署の協力を得ながら地域住民と防災訓練をしているが、コロナ禍で延期となっている。水害に対しての対策が重要と考え、土嚢・非常食の確認、停電時の対策を想定し、今までの反省点・改善点を含めて訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩に対し一人ひとりを尊重し言葉使いや接し方に注意しその方に合った対応をしている。	管理者・職員は毎日、利用者の顔をしっかりと見て朝の挨拶をするのを心掛け、何事もさりげなく行うなど日頃から、その人に合った対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全てを決めるのではなく、自己決定できるよう声掛けし選択できるように支援している。日常会話の中からでも希望や思いをくみ取り促していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活スタイルを尊重し無理強いせずその方のペースで生活できるようにしている。その日の体調に合わせて休んで頂く時間なども作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をピンで留めたり、くして整えたり、季節に合った服を着て頂いている。毎日同じ服にならないように服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がホールキッチンで調理している。出来る範囲でお手伝いをして頂いている。職員も一緒に食事をしながら味付けについて会話している。畑で採れた野菜等、旬の物を提供している。誕生会では手作りのお菓子なども提供している。	献立から調理まで全て職員が交代で作っている。畑で採れた「さつまいも」がみそ汁に、誕生日には手作りケーキでお祝いし、利用者・職員で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は記録に残している。摂りにくい時は捕食の提供や飲みやすい、食べやすい工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは声掛け、見守り、一部介助など一人ひとりに合わせた方法で行っている。口腔スポンジや歯間ブラシを個々に応じて使用している。定期的に訪問歯科でケアをしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその方に合ったパッドを使用したり、トイレへの声掛けをしている。出来るだけトイレで排泄し気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	高齢化に伴い布パンツ使用者は少ないが、一人ひとりの力を大切にしてトイレでの排泄を支援している。利用者の生活リズムと排泄チェック表で、どの対応が一番良いのか管理者・職員で検討し共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝礼で排便の有無を確認している。毎朝、牛乳を使った飲み物を提供している。水分を多めに摂ってもらったり、身体を動かしたり、腹部マッサージを行ったり排泄チェック表を確認しながら個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、良いタイミングで入浴して頂けるよう声掛けしている。拒否があった時は無理強いせず時間に空けたり、翌日に入っている。個々の入浴時のこだわりや手順を同じにして気持ちのいい入浴になるよう支援している。	週2～3回、午前中入浴を基本としているが、入浴拒否者にはその人に応じて入浴を楽しんでもらう工夫をしている。また、車いす利用者のシャワー浴を多く支援するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので習慣に合わせて休んで頂いている。気持ちよく休んで頂けるようベッドメイキングや居室の温度にも気を付けている。体調や状態に応じて日中も居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーは個人ファイルに綴じてあり把握できるようになっている。服薬時は職員同士の二重チェックを行っている。飲み込むまで確認している。看護師とも連携し状況の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの家事のお手伝いをして頂いたり、得意な事、好きな事が出来るような環境を作っている。歌や、塗り絵、編み物を一緒に行ったり季節に合った行事を開催したりと楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度で昼食外食やおやつを食べに外出をしていた。少人数で出掛けたりと本人の希望にそって計画を立てている。現在はコロナの影響で出来ないが駐車場への散歩などを積極的に行っている。	コロナ禍で外出を控えている中、事業所の敷地が広いので花畑にコスモス等を見に行ったり敷地内を一周する散歩をしたり、外気浴を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が欲しい物、必要な物は使用できるよう援助している。外出時は基本的に預り金から職員が支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって花や扇風機を用意して快適に過ごせるように工夫している。浴室やトイレには分かりやすい表示をしている。窓から洗濯物が見えたり、桜や紫陽花が咲き季節感や生活感を感じて頂けるようにしている。	オープンキッチン付きの広いリビングは採光に配慮した天窓があり明るい。3食手作りの台所からは調理の音や匂いが漂うと共に、利用者の殆どが見通せるように工夫されている。季節感を大切に、生け花や壁飾りで四季を感じてもらうように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファをいくつか置き誰でも自由に座って頂けるようにしている。仲の良い利用者同士で話せるよう席などの配置を考え座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や写真や思い出の品を飾ったりなるべく自宅に近い馴染みのあるもので居心地の良い環境作りに努めている。	居室には沢山の収納ができる押し入れやエアコン、ベット、洗面台が備えられている。机・筆筒・テレビなど思い出のものを並べ、ゆったりと落ち着いて過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるようにテーブルや自席の配置、個人のシルバーカーの置き場所など危険にならないよう考え安全な環境作りに心掛けている。又、施設内には手すりがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		